

## 自然体験で「生きる力」を育もう

早いもので今月下旬から夏休みに入ります。中学生は通常より1回の授業時間が長い特別時間割となります。普段なかなか時間のとれない超応用問題などにもじっくりと取り組んで実力養成を目指したいと思います。特に中3は勝負の夏です。今年は例年よりも12時間多い72時間を予定しております。中1、中2の復習に十分な時間がとれるのはここで最後となりますので、悔いを残さぬよう全力で取り組みましょう。

さて、小学生は例年申し訳ありませんが夏休みは授業を行っておりません。本来は1学期の復習のために夏期講習を行うべきなのですが、中学生との時間割の関係でまとまった時間がとれないのが現状です。ただ、せっかくの夏休みです。今年は何か普段とは違った体験がさせられないかと考え、小6対象に3日間のサマースクールを実施することにいたしました。

子どもの健全な発達には、知識（学力）と平行して知恵、感性（意欲、努力、忍耐力、思いやりなど）や体力をバランスよく身につけることが不可欠です。知識は机の上の勉強でも身につけることはできますが、生きていくための力である知恵や感性は机の上だけでは身につけられません。自然に親しむことによって本能が鍛えられ、感性が磨かれるというのが私の持論です。自分自身、電車も通っていない愛媛の片田舎で生まれ、18年間自然の中を走り回って過ごす中で健康な体の土台ができました。おかげさまで20年間1日も病気で休むことなく仕事を続けられております。今でも蝶を見ると血がさわぎ年甲斐もなく追いかけます。

二人の息子もどろんこになりながら大きくなりました。今ではもう成人していますが、どんな状況の中でも生きていけるだろうと思えるほどのしぶとさとコミュニケーション能力だけは身につけることができました。自然に鍛えてもらったおかげと思っています。

日本人は昔から自然に対して特有の感性を持ってきました。春、咲き誇る桜にはかなさを感じ、秋、山を紅に染めるもみじに一抹のさびしさを抱く。数学者の藤原正彦氏がおっしゃるように、この優れた感性と武士道精神こそが日本人の高い能力と品格を支えてきたのですね。

サマースクールは足助の里山で、もと小学校を改装したユースホステルを拠点に行います。渓谷でのます釣り、農業体験、工房での手作り、お寺での座禅、天体観察など、自然体験中心の毎日です。これらの体験を通して生きる知恵を身につけましょう。小学校時代、塾と一緒に勉強した友達と自然の中でともに数日間過ごすという体験は、一生の思い出になるにちがいありません。協力しあって高めあい、魂のふるえるような、楽しくて熱い3日間にしましょう！